

■西島八兵衛 農政家、水利功労者。藤堂高虎に仕え、業績を挙げて、幕府代官となり、さらに多くの治績。

にしじまはちべえ

26聖人殉教・1596＝ 遠江国浜松に生まれる。

関ヶ原の戦・1600＝ 4歳：

徳川家康隠居1605＝ 9歳：

家康駿府退隠1607＝11歳：

・・・・1608＝12歳：この年、藤堂高虎が伊予国今治から伊勢・伊賀に領地換えとなる。

キリシ教禁止・1612＝16歳： 津藩主藤堂高虎に近習として仕え、

大坂冬の陣・1614＝18歳：大坂冬の陣、

大坂夏の陣・1615＝19歳：大坂夏の陣に従軍して大功。

徳川家康没・1616＝20歳：

菱垣廻船始・1619＝23歳： 京都二条城の築城には高虎の命でその絵図を引き、大坂城修築の命が津藩に降ると、目論見書を提出、
支倉常長帰国1620＝24歳： *1年で竣工させ、以後、重用される。

利根川付替始1621＝25歳： 高虎が養女を嫁がせていた讃岐高松藩主生駒正俊が死去し、幼い高俊が襲封すると、

元和大殉教・1622＝26歳： その後見役に派遣され、郡奉行で500石、一応の成功をおさめて帰藩するが、

徳川家光将軍1623＝27歳：

イバニ断交・1624＝28歳： 瀬戸内で大早魃が起きたことを知ると、溜池の新設・修築の必要性を進言し、

寛永寺創建・1625＝29歳： *再び讃岐に赴任し、藤堂藩江戸詰め御用人のまま、請われて普請奉行となり、

人身売買禁止1626＝30歳： 再びの大早魃の惨状を見ると、東奔西走して知行主の家臣を説得し農民を激励して水利の開発に当り、

紫衣勅許無効1627＝31歳： 翌年にかけて、多数の溜池の新設・修築をしながら、

・・・・1628＝32歳： 450年間も放置されてきた巨大な溜池満濃池の調査を進めて再築造に着手、

紫衣事件・・・1629＝33歳： 藩の内紛や飢餓農民の徴用などで困難な立場になり、帰藩を願うも許されず、江戸詰1500石に加増後、

寛永禁書令・1630＝34歳： 高虎に説得されて讃岐に帰任してまもなく、高虎が死去するが、

糸割符拡大・1631＝35歳： 満濃池再築造を成功させた後も、讃岐に留まって、水利開発を続け、

徳川秀忠没・1632＝36歳：

この間、高松藩政の改革に加わり、幕府の城地受取に随伴。

参勤交替始・1635＝39歳：この年まで、さらにいくつかの溜池の築造し、

島原の乱始・1637＝41歳：河川の大改修を成し遂げて、広大な新田を生み出すが、

鎖国令Ⅴ・・・1639＝43歳： 生駒家の内紛が表面化したため、許しを得て伊勢に帰り、藤堂高次に仕え、1千石。

寛永飢饉始・1640＝44歳： 生駒家は取り潰された(生駒騒動)が、連座は免れ、

家光鎖国完成1641＝45歳： 幕命で、再び讃岐を訪れ、善後処理に当る。

初の高札・・・1642＝46歳： 津藩を大干ばつが襲って、凶作になると、藩主高次の命で領内を巡回して復興策を講じ、

とくに、条件の悪い雲出川下流域への対策として、用水の開削に取り組み、

・・・・1646＝50歳：再び、津藩を大干ばつが襲い、領内を巡回して復興策を講じ、

市中諸法度・1648＝52歳： *幕府に乞われて、城和奉行となり、

慶安御触書・1649＝53歳： のち有名になる伊勢国雲出井用水が完成し、給水区域13か村、600余町の水田を潤した。

御蔭参流行・1650＝54歳： この年、新田開発奨励のお札が出る。

徳川家光没・1651＝55歳：

新利根川完成1654＝58歳： 津藩あげての大規模な新田開発が始まると、技術指導を受け持ち、

・・・・1655＝59歳：大池・東の狭間池を竣工するも、大雨で一部決壊し、

明暦の大火・1657＝61歳：

人身売買禁止1658＝62歳： ようやく津藩最大の新田を完成させる。伊賀奉行に任じられ、

朱舜水帰化・1659＝63歳： 城和奉行に転じ、

酒井忠清大老1666＝70歳：

足利学校再建1668＝72歳：

29年間、 大いに治績をあげ、名代官ぶりを示して、

・・・・1677＝81歳： *致仕し、伊賀上野に隠居。

俳句と書道に親しみながら、

徳川綱吉将軍1680＝84歳： 没した。

村民によって水分神社(八兵衛宮と称す)が建てられ、1909(明治42)高茶屋神社に合祀された。讃岐の満濃池畔の神野神社の祭神の一人にもなっている。

「人づくり風土記(三重)(香川)」、インターネット